

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第63号 〔2014年5月号〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第63号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## <目次>

スタディツアー参加者募集！

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



## スタディーツアー参加者募集！

今年のスタディーツアーのツアーリーダーとなりました佐藤慈（さとうちか）です。

今年の3月まで病院で看護師をしていましたが、今は小林先生のもとで国際地域保健を学んでいます。以後よろしく願いいたします。

今年も毎年恒例のスタディーツアーを開催します♪。

◆日程は **8 / 4 (月) ~ 8 / 9 (土)** の **6日間**です。

◆ **JAMの日本人スタッフがバンコクからの全行程に同行**するので、海外が初めての方でも大丈夫。

◆ 「**JAMのスタディーツアーのここがおススメ！**」

- ☆ 難民キャンプ・難民診療所に行ける
- ☆ ミャンマー人難民の生活。現状を知れる
- ☆ 国際保健関連のワークショップに参加できる
- ☆ ノーベル平和賞候補にもなったシンシア医師のお話が聞ける
- ☆ NGOで働く日本女子の生の声を現地で聞ける

などなど、JAMでは参加者の皆様が楽しめるようスタディーツアーを企画しています。国際保健・移民難民に興味のある皆様の参加をお待ちしています。お気軽にお問い合わせください。

以下募集要項をご参照ください。

**2014年度メータオ・クリニック支援の会主催**      **スタディーツアー 参加者募集要項**

### ～タイ/ミャンマー(ビルマ)国境、移民・難民の生活を肌で感じる旅～

みなさんはタイ・ミャンマー国境に多くのミャンマー人の移民・難民が暮らしていることを知っていますか？

JAMのスタディーツアーでは普段なかなか訪問することが出来ない、難民診療所や難民キャンプを訪問します。国境の町、メソト(MAESOT)で移民・難民の医療・教育・生活を見て感じて考える旅にあなたも参加してみませんか？

ノーベル平和賞候補にもなった避難民の為の診療所(メータオ・クリニック)のシンシア院長との会談や、JICA長期専門家などで途上国の地域保健・学校保健で活動し、現在は琉球大学・国際地域保健学教室の教授であり、JAM代表でもある小林潤医師による国際保健入門



ワークショップを企画しています。さらに JAM から派遣されている現地駐在の看護師スタッフとの座談会も予定しています。

ミャンマー／ビルマ難民、移民の保健・医療の問題に関心のある方は、是非この機会にご参加ください。

■ 日時：2014年8月4日（月）～8月9日（土） 5泊6日  
（バンコク、スワンナプーム空港集合、解散）

■ 参加費：**70,000 円**

\*参加費にはバンコクからメソトへの移動費、現地メソト移動費、宿泊代、難民キャンプ訪問代、コーディネート代、現地での朝食費用は参加費に含まれています。  
昼食、夕食代は現地にて徴収させていただきます。（目安；1日約1000円/人）  
バンコクまでの航空運賃、現地でのお土産代、飲酒代、その他個人的な支出などは含みません。

■ 対象：JAM 賛助会員

非会員の方は、賛助会員になることが条件となります。  
賛助会員費として、一般3,650円、学生1,825円が必要になります。  
詳しくは JAM のホームページをご覧ください。

■ 定員：15名（応募多数の場合は先着順、催行人数8名以下の場合は中止となります。）

■ 申込締切：**2014年6月9日（月）**

■ お申込方法：

・以下を明記の上、申込みする旨をメールで support@japanmaetao.org（担当：佐藤）へお送り下さい。

メールタイトル 「2014年スタディーツアー申込み」

- (1) 氏名
- (2) 住所（都道府県のみで結構です）
- (3) 年齢
- (4) 職業
- (5) その他ご希望があれば記載してください。

バンコクまでの飛行機は各自で手配をお願いします。東京より当会スタッフと一緒に飛行機の便をご希望の方は、その旨もお書き添え下さい。

お申込メールを確認後、こちらより正式な申込書類を添付したメールをお返しいたしますので、その書類に記入、押印のうえ、郵送にてお送りいただくこととなります。この書類が正式な申込書となります。



■ 日程・内容

日にち(曜日)	時間帯	旅程
8月4日(月)	08:00	バンコク スワンナプーム空港集合
	08:30	バンコク・スワンナプーム空港発 メソトへ移動
	12:00	道中にて昼食
	17:00	メソト着 <u>国境の橋・国境マーケット訪問</u> タイとビルマの国境に架かる橋へご案内します。 向こう岸のビルマの様子もご覧いただけます。
	18:00	ホテルへチェックイン
	19:00	<b>夕食会</b>
	8月5日(火)	8:30
10:30		<u>シンシア医師との座談会</u> シンシア医師に国境のクリニックの現状について伺います。
12:00		<b>昼食</b>
13:00		<u>ワークショップ</u> JAMの小林潤代表による国際保健の入門ワークショップを開催します。
17:00		ホテル着
18:00		<b>夕食</b>
8月6日(水)		8:30
	13:00	メソト市内にて昼食
	15:00	<u>ゴミ集積所に暮らす人々の地域を訪問</u> ゴミ集積所を住まいとし、運び込まれるゴミ集め売ることによって生計を立てている地域を訪問します。
	17:00	ホテル着
	19:00	<b>夕食</b>
8月7日(木)	終日	<u>自由行動</u> 国境の人々の日常に触れる事が出来ます。 市内観光、ビルマ・マーケットなどが楽しめます。
8月8日(金)	終日	<u>難民キャンプ訪問</u> ※メラキャンプまたはウンピャンキャンプ 日本が難民として受け入れたカレン民族の住んでいるキャンプです。
	18:30	<b>夕食</b>
8月9日(土)	9:00	<u>振り返り・感想・まとめ</u> 旅に関する質問をし、国境での最新の変化などを含め討議します。この座談を通して国境の現状の理解を深める事が出来ます。
	11:00	メソト出発
	12:30	<b>昼食</b>
	19:00	スワンナプーム空港着、解散



宿泊 : メソト市内のホテルに宿泊します。  
移動 : すべて専用のマイクロバスでの移動となります。  
食事 : 参加者の皆様の好みに合わせて調節いたします。アレルギーや香辛料等苦手なものがある方はお申し出ください。

## ■ 留意点

○学生または未成年の方へ

保護者同意書の提出が必要となります。別紙「保護者同意書」に必要事項を記入し、必ずご提出下さい。提出できない場合は、ツアーの参加ができなくなりますのでご注意下さい。

○持病のある方、治療中の方、その他体調に問題のある方へ

申込の前に必ずかかりつけの医師にご相談下さい。また現在、内服または自己注射等で治療中の方は、申込書にその旨ご記入下さい。状況により医師の診断書をご提出のうえご参加いただく場合や、やむを得ずツアーの参加をお断りさせていただく場合があります。現地では日本と同等の医療を受けることが困難であり、また思わぬ緊急事態によって帰国が延期された場合など、病状の悪化や治療中断の恐れがあることをご理解下さい。ご熟慮のうえお申込みいただきますようお願い申し上げます。

○ツアー開催時タイは雨期で、メータオ・クリニックの位置する地域は特に雨の多い場所です。雨具および長袖の衣類をご持参いただきますようお願いいたします。

○現地はマラリアの流行地ではありませんので予防内服は必要ありません。しかしデング熱は特に雨期に多発しております。虫除けには十分ご注意ください。

○予防接種として特に必須なものはありませんが、感染のリスクはありますので、A型肝炎、狂犬病、破傷風などのワクチン接種につきましては各個人の判断での接種をお願いいたします。夜間の外出は極力控えるようにしてください。

○全日程に、JAM スタッフ（日本人）が同行します。

○海外傷害保険への申し込みはツアー参加の条件とします。参加費には保険代金は含まれませんので、渡航までに各自でご加入ください。申し込み先、保険の内容は問いません。参加者の安全についてはJAMの同行者が最善の注意を払いますが、ツアー期間中に事故、盗難、病気などが発生した場合、その補償はすべて参加者が加入する旅行保険でカバーさせていただきます。

○宿泊はすべて一人部屋をご用意します。ツインルームをご希望の参加者様は事前にお申し出ください。その場合は一人部屋との差額を現地でお返しします。

○スケジュールは、2014年5月現在のものです。現地交通状況、視察施設の諸事情などにより予告なく内容および訪問順序が変わることがあります。あらかじめご了承ください。

○参加費の一部は、JAMの活動資金に使わせていただきます。

## ■ 問い合わせ

メータオ・クリニック支援の会 担当：佐藤



Eメール：support@japanmaetao.org

ご質問等ありましたら、佐藤までメールにてお気軽にお問い合わせください。  
皆様のご参加お待ちしております。

メソトマンスリー



【メソト=田畑 彩生】

## 水掛け祭りは国境を越えて



4月、乾期で日中は40℃を越える猛暑の盛り。

国境では、例年互いに水を掛け合いその一年の健康と幸福を願うお祭りがあります。

本来は、ミャンマー国内、タイ国内を含め、ラオスなど仏教の国では行われる新しい一年を家族でお迎えし、年長者を敬うお祭りでしたが、近年では激しく水を掛け合う納涼の行事として親しまれる様になりました。

今年は、4月13日から15日がその旧正月にあたりました。大晦日には、国境の人々も大掃除、そして田舎への帰省ラッシュが始まります。

クリニックの若いスタッフたちも自分たちの村へ帰省します。ミャンマーでは、このお祭りをダジャン、タイでは、ソンクラーンと呼んでいます。





【対岸はミャンマー】

今年、タイ/ミャンマー（ビルマ）国境のモエイ川では、国境の友好橋の下が自由遊泳となり解放されました。去年は、この様な自由な国境の川の解放は見られませんでした。多くのテレビ局がその様子取材しています。

乾期のモエイ川は、学童期の子どもでも胸まで浸かれば歩いて渡れる程にまで水位が下がります。雨期は、写真の橋脚半分程までに水位が上がるのですから驚いたものです。昨年7月には、橋げたぎりぎりまで水位が上がり、両国が大洪水になりました。

大人も子どもも、水を掛け合い暑さを吹き飛ばします。メソト市内でも、ちょっと歩けば、氷入りの水が頭から降って来る勢い。あっちからも、こっちからも水の嵐で撮影もままなりません。お隣の人もビルマから渡って来たのか、タイ側で泳いでいたのか…もうこのごった返しでは分かり様がありませんね。

## 国内から

【東京＝淵上養子】

こんにちは。JAMの設立当初からスタッフをさせていただいております淵上です。主な役割として、会員の皆様やご寄付くださいました皆様へのご連絡や対応を担当しております。メータオ・クリニックおよびJAMの活動をご支援くださいます皆様のあたたかいお気持ちや応援のメッセージに、いつも心より感謝しております。

私は普段、埼玉県の自治体で保健師をしております。と申しましても、ちょうど今月、2人目の育休から復帰し、久しぶりに職場である保健センターに戻ったばかりです。あまりないことなのですが育休中に課内異動となりまして、まだ慣れない仕事に戸惑いながら日々奮闘しております。

保健師になろうと思った理由は、いつか海外のフィールドで働くことができたらいいなという想いが学生時代からあり、公衆衛生に携わる保健師の仕事をするればその勉強ができるのではと考えたことがきっかけでした。きっと、JAMのような国際協力NGOをご支援くださいます皆様の中には私と同じように、健康の維持・増進、疾病予防にかかわる公衆衛生に関心のある方がいらっしゃるのではと思います。そこで今回、保健師の仕事の様子を記事にさせていただくことにしました。

私の勤務する自治体は、業務担当制をとっており（来年度から地区担当制に移行）、今回の異動で「成人保健担当」から「母子保健担当」に移りました。今まで青壮年～高齢者を対象



にメタボ対策や介護予防を主に担当していたのですが、対象がガラリと変わって、今度は、主に妊娠期から育児中のお母さんや家族、新生児～就学前のお子さんに関する健康相談や保健指導を仕事とするようになりました。当保健センターにはほかに、地域の住民組織や関係機関と連携して健康づくりの基盤をつくる「健康づくり支援担当」と「予防接種担当」があります。

保健師の多くは行政に属しており、その他には企業や病院で働く保健師もいます。また、行政の中でも、都道府県、特別区（東京23区）、市町村（政令指定都市、中核市、特例市、その他）と、その都市の規模によって保健師が担う業務が異なり、さらに私の働く保健センターのように、配属先の担当によって仕事が異なります。同じ保健師として、知識の普及啓発、健康相談・教育、関係機関との連携・調整など、共通した部分をもちながらも、行政保健師は法令や自治体の権限に沿って事業を行うという点で違いが生じるからです。そのため、私が行っているのは保健師の仕事のほんのごく一部なのですが、たとえばこんな1日を過ごしています。

### ＜母子保健担当“見習い”保健師のある1日＞

午前)・新生児訪問（出産後に投函する出生連絡票で希望有に○を付けた方が対象）を実施した登録助産師さん3名が別々に来所。その都度、訪問の報告を受ける。

今後のフォローについて確認。

- ・電話対応 → 育児相談（授乳について）1件、健診に関する問い合わせ 多数

午後)・3歳児健診

身体計測（身長、体重、頭囲）、問診、相談を一部ずつ担当

事業後のカンファレンスに出席

- ・電話対応

当市では4か月、1歳6か月、3歳児を対象に集団健診を行っており、健診で把握された支援対象者、例えば、育児不安のあるお母さん、発育や発達に問題のありそうなお子さん、重度な疾患をお持ちのお子さん等のケースに対し、事後フォローを個別に行っていきます。

フォローの仕方は、後日電話で様子を伺う方法から、地区担当保健師の訪問、保健センターの事業にお誘いして定期的に計測し保健師が経過を見ていく、医師や臨床心理士の診察を受けられる個別相談会に来所していただくなど、個々の症状や本人・保護者の受け入れ方によって考えていく必要があります。

このような支援が必要と思われる対象者は健診だけではなく、生後2ヶ月までに行う「新生児訪問」、4ヶ月までに行う「乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）」、普段の電話相談からも把握されてきます。中には、児童虐待に発展する可能性のあるケースもあり、その場合は、児童相談所、市の子ども安全課、家庭児童相談員等、多機関で連携をとって対応していく必要があります。また、精神疾患をお持ちのご家族がいる場合、保健所の精神保健担当ともつながりを持つなど、多機関でそれぞれの役割を確認し合いながら対応していくことが求められます。

中には支援側は何らかの対応が必要（例えば、子どもの発達の遅れについて）と思っても、特に保護者の方がその必要性を認識していない場合など、介入の方法やタイミングが難しい場面もあり、これから多々悩みながら私自身が経験を積んでいかなければならないことと覚悟しています。お子さんやお母さん、その家族が健やかに暮らすために必要な支援が届けられる、そのチャンスをしっかり逃さずに、的確な対処、助言ができるようにしなければと、緊張感を持って電話や健診に出ています。

とはいえ、「そうそう、ちょっとしたことでも、いろいろ悩むよね～」と育児相談のお母さんに心の中で共感し、身長計に乗るのにも怖がったり、得意顔だったり、それぞれ個性があってかわいい子どもたちの姿に癒され、忙しくも楽しく、充実した日々を過ごしています。



私はまだまだ経験が浅く、守備範囲が広くて深いこの職業に「保健師の仕事って？」と雲をつかむような思いになることも多いのですが、住民の健康を守る保健師の経験を生かして、いつかビルマ難民の方々のために現地で活動できたらいいなと思っています。子どもが巣立つ頃になってしまうかもしれませんが、その頃、ビルマ難民の方々はどのような状況にあるのでしょうか？多くの方が難民ではなく、母国に帰還を果たし、健康な生活が送れる状況になっていることを願っていますが、ビルマ国内の保健衛生が整うまでの道のりは長くかかるものと思います。

これからも私にできることはわずかですが、JAMの活動を通してビルマ難民の方々のためにできることを続けていきたいと思っています。

## 編集後記

今年、宝塚歌劇団が創立100周年なんだそうです。

以前から、見たい見たいと思っていたのですが、なかなか機会がなく。

でも、今年はせっかく100周年だから見たいなあと思ってチケットを取りました！

月組の「宝塚をどり」「明日への指針 —センチュリー号の航海日誌—」「TAKARAZUKA 花詩集100!!」の公演です。もう、宝塚大劇場での公演は終わっていて、今、東京の宝塚劇場で公演中なのですが、ご覧になられた方もいるかもしれませんね。

私がとったチケットは、博多座での公演なので本場の宝塚大劇場よりは、大階段の段数が少ないらしいのですが、舞台全体が見渡せる真ん中の席がとれたので今からとても楽しみです。

## 次号の予定

次号は、6月中～下旬ごろ配信の予定です。

ホームページは、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

Facebookにもぜひ「いいね！」をよろしくお願いします。



**NPO法人メータオ・クリニック支援の会      Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)**

日本事務局宛て E メール： [support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org)

ホームページアドレス      : [www.japanmaetao.org](http://www.japanmaetao.org)

フェイスブック                      : Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

